

# 高度医療で希少疾患も対応

年間500件以上の手術を行うなど、高度医療を提供する群馬大医学部附属病院耳鼻咽喉科。耳、鼻、喉に加えて首から上、頭より下の「顔面」の病気を扱い、発声や摂食などに関わる機能障害の改善から希少疾患まで対応する。同科の近松一朗教授は「新しい技術を積極的に取り入れ、他の診療科との円滑なチーム医療を推進していく」と話している。

## 耳鼻咽喉科

### 幅広い専門領域

耳鼻咽喉科の専門領域は耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・頭頸部と幅広い。耳や鼻の病気だけでなく、聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚といった生活に欠かせない感覚器を扱う診療科でもある。近松教授は「高齢化に伴い、がん患者はもちろん、当科領域の機能障害をもつ患者が増加しつつある」と話す。

同科の医師は19人。治療対象は頭頸部がんや真珠腫性中耳炎、慢性副鼻腔炎、扁桃炎などの疾患が多いが、近年はヒトパピローマウイルス感染による中咽頭がんや、難治性の好酸球性副鼻腔炎の罹患が増加傾向だという。

診療にはリハビリテーション部の言語聴覚士と検査技師が携わるほか、外来・病棟では看護師や薬剤師、栄養士ら多くのスタッフとともに医療業務を行う。境界領域では、消化管外科



カンファレンスで患者の電子カルテを見ながら、手術方法などを検討する耳鼻咽喉科のスタッフ

や形成外科、脳神経外科などと連携し、診療のさらなる向上を目指している。

### 導入進む新技術

電子工学や画像処理技術、新薬開発などの進歩に伴い、体の負担が少ない内視鏡手術やがんの早期発見につながる内視鏡シ

ステム「NBI」といった新たな技術、抗体薬などによる治療法が臨床現場に登場しており、同科でも導入が進んでいる。

耳の領域では、感染症やけがで空いた鼓膜の穴を外来処置のみでふさぐ再生療法、喉頭領域では、喉頭全摘術後に声が出なくなった患者を対象に、気管孔と食道との間に細い管を挿入して発声させる「シャント発声」のための手術が可能になった。

頭頸部領域では、放射線科と協力して重粒子線治療を行うほか、5年前から再発・転移がんに対する免疫療法を取り入れている。同病院は薬剤とレーザーシステムを併用した光免疫療法(頭頸部アルミノックス治療)の認定施設になっているため、適応する場合は治療できる。今後はロボット支援による鏡視下手術(内視鏡を用いた手術)の導入を検討しているという。

毎年、同科志望の医師を3人程度、新たに迎え、人材育成に

も力を入れる。診断や治療だけでなく、医療安全・医療倫理についても理解を深め、医師としての基本的な姿勢を身に付けられるよう指導している。

### 世界標準の治療を

県内の中核病院7病院と、耳鼻咽喉科専門医を育成する研修プログラムや医師派遣を通じて地域医療連携にも取り組む。近松教授は「耳鼻咽喉科領域のさまざまな疾患を診療する県内唯一の大学病院として、世界標準の治療を提供していきたい」と力を込める。

近松教授は「コロナ禍の受診控えの影響からか、病状が進行した状態の患者が増えているように感じる」と指摘する。「当科の領域も他の病気と同じように、早期発見が重要。異常を感じた時はできるだけ早く、近くの医院に受診を」と呼び掛けている。



(上)鼻から細いファイバースコープを挿入して症状を確認する

(左)耳鼻咽喉科について語る近松教授

## 頭頸部外科月間

# 市民公開講座

日時/2022年7月3日(日)10:00開演

場所/群馬大学医学部刀城会館(前橋市昭和町3丁目39-22)

参加費/無料(お申し込み不要です。直接会場へお越しください)

※駐車料金が別途200円がかかります。

講演

10:00

11:00

①「お酒・たばこ」と「がん」 近松 一朗 先生

②「頭頸部がん」とは? 井田 翔太 先生

無料相談会

(申込不要)

11:00▶12:00

## 「頭頸部がん」を知っていますか?

頭頸部とは、脳と目を除いた首から上のすべての領域を指します。その領域にできるがんを「頭頸部がん」と言います。

毎年7月27日は「世界頭頸部がんの日」であることから、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では2021年より毎年7月1日~31日を「頭頸部外科月間」とし、日本における頭頸部がん予防と啓発活動を展開することになりました。



市民公開講座  
情報はこちらから



理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。  
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。  
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。  
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大学医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)

https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/